

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地											
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		前野 一夫		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111											
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地											
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111											
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士										
文化・教養	芸術専門課程		ミュージックアーティスト科 サウンドクリエイターコース			平成21年文部科学省 告示第22号	-										
学科の目的	第一目標としてミュージシャン、ヴォーカリスト、クリエイターとしてデビューを目指します。二つ目に音楽・芸術の知見を生かせる企業への就職を目指します。																
認定年月日	令和2年3月25日																
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	時間									
	2 年									昼間	1710	945	0	1560	0	0	
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数							
120人		48人		2人		5人の内数		52人の内数		57人の内数							
学期制度	■前期:4月1日～10月11日 ■後期:10月12日～3月31日			成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S:90点以上 A:80～90点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格 P:単位認定											
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:8月10日～8月15日 8月31日～9月7日 ■冬季:12月23日～1月8日 ■学年末:3月18日～3月31日			卒業・進級 条件		進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。			課外活動		■課外活動の種類 卒業作品演奏会、ボランティア活動、体育祭、学園祭、海外研修旅行、ショーケースライブ ■サークル活動: 有											
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) 株式会社デジタルワークスエンターテインメント、株式会社マーキュリー、株式会社タークホース ■就職指導内容 就職活動期前より就職動議づけの講座を実施し、履歴書、エントリーシート、面接所作等の講座や、業界・企業研究などを行っている ■卒業生数 22 人 ■就職希望者数 21 人 ■就職者数 10 人 ■就職率 : 47.6 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 45.5 % ■その他 ・東京工科大学 メディア学部編入: 1人 ・他大学編入: 1人 ・アーティスト契約 1人(株式会社ドリームライン) ・女優所属契約 1人(株式会社CESエンタテインメント)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報)											
	(平成 31 年度卒業者に関する 令和2年5月1日 時点の情報)					<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビジネス検定3級</td> <td>③</td> <td>22人</td> <td>14人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄</p>					資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ビジネス検定3級	③	22人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数														
ビジネス検定3級	③	22人	14人														
中途退学 の現状	■中途退学者 5 名 平成31年4月1日時点において、在学者52名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者45名(令和2年3月31日卒業者を含む) ■中途退学的主要原因 進路変更(就職・進学)、経済的理由、病気治療、成績不良 等 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任と科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。 担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談を行っている。 また、休学者にも復学(転科等)の指導・助言・相談も行っている。			■中退率 9.6 %													

経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</p> <p>・片柳学園入学金免除制度・若きづくりびと奨学金制度・再入学優遇制度・片柳学園奨学金制度・留学生特別給付制度</p> <p>・ミュージシャン特待生・スポーツ特待生</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 非給付対象</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 有</p> <p>特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日)受審  <a href="http://www.neec.ac.jp/education/accreditation/">http://www.neec.ac.jp/education/accreditation/</a></p>
当該学科のホームページURL	<p><a href="https://www.neec.ac.jp/department/music/artist/">https://www.neec.ac.jp/department/music/artist/</a></p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

コンサート・音楽業界に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施し、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラムに反映させる。

また、年度毎に既存のカリキュラムについて総合的に検証する。授業科目のシラバスをもとに、科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、内容や評価方法を定める。また、学習評価を踏まえ、授業内容及び方法について検証する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、カレッジ長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
今泉 裕人	一般社団法人 コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	①
宇佐美 友章	株式会社REDMusic 代表取締役	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	③
内川 岳浩	株式会社センターラインレコード 代表取締役	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	③
前野 一夫	日本工学院八王子専門学校 校長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	
朝比奈 孝浩	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長・科長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回

(開催日時(実績))

第1回 令和元年7月9日(火) 10:00～11:00

第2回 令和2年6月15日(月) 17:00～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会において、業界が求める人材のイメージの意見交換をしつつ、現在のカリキュラムが業界で求める人材育成に適しているかを確認している。

また、業界の動向から指導方法についても検討する場となっている。

具体的には、業界では新人のSNSやインターネットにおけるデジタルコミュニケーション低下と音楽制作能力の劣化が進んでいるという意見を受けて、「ベーシックレッスン1, 2」にてデジタルコミュニケーション能力を高め、音楽をサブスクリプション・配信にて発信していくワークショップや、新しく作曲の実習を追加して音楽制作能力を強化することとした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針  
 実践的な指導を受けるにあたって、関連分野での実績や、知識、技術、制作管理能力に基づく指導力を有する講師の派遣協力が得られる企業を選定し、基礎力重視の教育方針で授業シラバスの作成から連携をとる。企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容  
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記  
 出講している現役ミュージシャン、またはミュージシャン講師の所属するプロダクションで使用している譜面や、レコーディング現場で使用している譜面、音源を用いて、現場に限りなく近い演奏指導を実施することが出来ている。  
 専任教員は、日常的に現場のミュージシャンやアーティストと接しているため、授業計画や評価方法、学生指導上の問題点、改善案などは常に情報共有している。講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ベーシックレッスン1	ミュージシャンになるために必要な実演・創作方法を学ぶ。 また、学期末にはオリジナル作品を制作。	株式会社スマッシュルーム
ベーシックレッスン2	講師が所属する事務所にて作った作品のノウハウを学生用にアレンジして指導。譜面を事務所から借用。	

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  
 教員の業務経験がCDデビュー世代の音楽制作能力をベースとした技能であるため、サブスクリプションによるデジタル音楽配信をベースとした講義・実習の質の向上を目的とした研修を学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、計画的に行っている。  
 具体的には、教員が主に担当する科目「オリジナル作品制作」「アンサンブル」に関してサブスクリプションとデジタル音楽配信における知見を学ぶ研修や、デジタルサウンド制作ソフト「Cubase」のソフトウェアバージョンアップを考慮し、最新のバージョンにおける音楽制作技術研修を行い、技術力と技能を修得する。  
 また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績  
 ① 専攻分野における実務に関する研修等  
 研修名「音楽配信時代における権利を考慮した音楽制作指導方法について」(連携企業等：E&R総合法律会計事務所)  
 (連携企業等：E&R総合法律会計事務所)  
 期間：令和元年12月19日(木)  
 対象：ミュージックアーティスト科教職員  
 サブスクリプション時代を超えて音楽がデジタルコンテンツの一部に変わり、これまでのCD制作における著作権の考え方が通用しなくなってきたので新時代の権利を理解したうえで先端音楽を制作する方法・指導するにあたっての方法論について学ぶ。

② 指導力の修得・向上のための研修等  
 研修名「Cubase10を活用した音楽制作方法について」(連携企業等：株式会社センターラインレコード)  
 期間：令和2年3月予定(コロナウイルスのため延期、実施検討中) 対象：ミュージックアーティスト科、音響芸術科教職員  
 内容：音楽・音響制作のメジャーソフト「Cubase10」について、ソフトをバージョンアップした場合の注意点や、version10特有の新機能を使った音楽・音響制作方法について勉強会を行う予定

(3) 研修等の計画  
 ① 専攻分野における実務に関する研修等  
 研修名「17Liveを活用したライブ配信方法について」(連携企業等：株式会社17 Media Japan)  
 期間：令和2年10月予定 対象：ミュージックアーティスト科、音響芸術科教職員  
 内容：次世代の音楽配信の最新技術「ネットライブ配信」における先端アプリ17 Liveを活用した音楽配信をアーティスト側、音響スタッフ側の両面から考察した勉強会を行う予定

② 指導力の修得・向上のための研修等  
 研修名「UI/UXを考慮した学生指導法」(連携企業等：株式会社B.C.Members)  
 期間：令和3年3月予定 対象：ミュージックカレッジ教職員  
 内容：デジタル社会の中で特に遠隔教育において理解度を上げる鍵となるUXについて理解し、UI/UXを考慮した指導法を学ぶ研修を実施予定。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	(2) 運営方針(3) 事業計画(4) 運営組織(5) 人事・給与制度(6) 意思決定システム(7) 情報システム
(3) 教育活動	(8) 目標の設定(9) 教育方法・評価等(10) 成績評価・単位認定等(11) 資格・免許取得の指導体制(12) 教員・教員組織
(4) 学修成果	(13) 就職率(14) 資格・免許の取得率(15) 卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	(16) 就職等進路(17) 中途退学への対応(18) 学生相談(19) 学生生活(20) 保護者との連携(21) 卒業生・社会人
(6) 教育環境	(22) 施設・設備等(23) 学外実習・インターンシップ等(24) 防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	(25) 学生募集活動(26) 入学選考(27) 学納金
(8) 財務	(28) 財務基盤(29) 予算・収支計画(30) 監査(31) 財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	(32) 関連法令、設置基準等の遵守(33) 個人情報保護(34) 学校評価
(10) 社会貢献・地域貢献	(35) 教育情報の公開
(11) 国際交流	(36) 社会貢献・地域貢献(37) ボランティア活動

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

Society 5.0を踏まえた教育が必要との意見から、専門分野だけでなくインターネットなどのIT技術を中心に修得できるような学科・カリキュラムを超えたラポーレーションを強化するとともに、コミュニケーションやビジネススキル向上、部分で積極的に勉強するようなアクティブラーニングの環境を整えるため、地域連携事業を積極的に推進する。

コロナ禍でのオンライン授業などに対応するため、利用しやすいIT環境の整備を早急に進めていく。また、対面授業においても専門家からの意見を参考に、感染防止対策に万全を尽くしていく。

教員もコロナ禍における授業体制に対応するスキル向上のため、今年度も引き続き教員の就労環境の改善をはかりながら、自発的な能力開発及び向上を目的とした「学校法人片柳学園職員自己啓発支援制度」を積極的に活用できるよう教員の研修体制を整えていく。

募集活動においては、オンライン面談など将来を見据えた対策も早期に計画する。また、経済的な問題を抱えている学生へは、高等教育の新制度を周知しながら修学継続できるような支援策を計画していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社 グループマネージャー)	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	卒業生/IT 企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 事務局長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	地域関連
三井 隆裕	株式会社ヌーベルバーグ 代表取締役社長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 執行役員 企画戦略室 室長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	デザイン 企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務局長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	医療 企業等委員
宮崎 豊彦	八王子市私立保育園協会 会長 城山保育園 園長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	医療・保育 団体等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

公表時期: 令和2年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、令和元年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

授業科目等の概要

(芸術専門課程ミュージックアーティスト科/サウンドクリエイターコース) 2020年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			作品研究 1	音楽・美術・写真・デザインという幅広いアートについて学ぶことで、考察力・企画力・発言力に優れた社会人を育成する。	1・前	30	2	○			○			
○			作品研究 2	音楽・美術・写真・デザインという幅広いアートについて学ぶことで、考察力・企画力・発言力に優れた社会人を育成します。	1・後	30	2	○			○			
○			専攻実技 1	サウンドクリエイターとしての個性を徹底的に伸ばし、高いクオリティーで表現できる作品制作を目指す。そのためには学生各自が目指すサウンドの探求のみならず、幅広い知識、様々なスキルが求められる。各自DAWで制作作業をするなかでそれらを身につけ、定期的な授業内発表により、締め切りに向けた自分なりの作業工程の組み立てを考えさせ、「人前で発表する」とはどういうことかを体感する。	1・前	30	1			○	○			○
○			キャリアプランニング 1	コンピュータプログラミング教育の必修化を受けて、今後の社会人にとって論理的思考能力・問題解決能力の向上が必須となります。AI時代でもビックデータの構築・選別は人間が行なうものであり、コンピュータ的な考え方を理解する必要があります。アルゴリズム構築の論理的思考能力・問題解決能力の向上を図り、仕事の幅や理解度の高い社会人を育成します。	1・前	30	2	○			○			○
○			キャリアプランニング 2	論理的思考能力・問題解決能力の更なる向上を目指して、キャリアプランニング1で習得したアルゴリズム構築能力を活用し、実務で通用するEXCEL活用法とマクロVBコーディングまでを行います。	1・後	30	2	○			○			○
○			外国語 1	グローバル化が加速している現代社会において英語は不可欠である。そんな時代の中で活躍できるようなミュージシャンになるための英語力とコミュニケーション能力を学ぶ。海外に行った場合を想定し実践的な会話ができること、お互いの文化の違い・それぞれの国での考え方の多様性の体得をすることで、国際的な人間関係を築いていくための知識と技術を身につけることを目的とする。	1・前	30	2	○			○			○

○		外国語 2	グローバル化が加速している現代社会において英語は不可欠である。この授業では、そんな時代の中で活躍できるようなミュージシャンになるための英語力とコミュニケーション能力を学ぶ。海外に行った場合を想定し実践的な会話ができること、お互いの文化の違い・それぞれの国での考え方の多様性の体得をすることで、国際的な人間関係を築いていくための知識と技術を身につけることを目的とする。	1・後	30	2	○			○			○
○		音楽業界研究 1	ミュージシャンの収入の得る方法の一つではないこと、JASRACからの印税、印税を得るために不可欠な契約書の重要性を教える。近年のネットビジネスの基礎知識（音楽の情報発信）。年度末に行われる確定申告もミュージシャンとして生活していく為には、重要であることを理解させる授業にしていく。	1・前	30	2	○			○			○
○		音楽業界研究 2	音楽業界における身だしなみ・電話応対・来客応対などの基本動作や言葉遣いを、ロールプレイングやグループワークにより体験的に学ぶことで、「わかる」から「できる」、さらには「身につく」ようにします。人間の第一印象は、コミュニケーションの第一歩として非常に重要です。講義形式でイメージや非言語コミュニケーションへの理解を深めます。	1・後	30	2	○			○			○
○		音楽基礎A 1	譜面の知識を学ぶが視覚的に確認するだけではなく実際に自分で音を出して耳で確認しながら進めることを重視する。知識としての譜面ではなく、実際に自分の曲や演奏にすぐにフィードバックできるように身近な音楽とリンクさせつつの解説で興味を持って理論を習得する。	1・前	30	2	○			○			○
○		音楽基礎A 2	譜面の知識を学ぶが視覚的に確認するだけではなく実際に自分で音を出して耳で確認しながら進めることを重視する。知識としての譜面ではなく、実際に自分の曲や演奏にすぐにフィードバックできるように身近な音楽とリンクさせつつの解説で興味を持って理論を習得する。	1・後	30	2	○			○			○
○		音楽基礎B 1	次世代を担うミュージシャンに必要な基礎知識、音楽の成り立ち、音楽の歴史、コンピューター、MIDI、ミキシングを学ぶ。	1・前	30	2	○			○			○
○		音楽基礎B 2	次世代を担うミュージシャンに必要な基礎知識、音楽の成り立ち、音楽の歴史、コンピューター、MIDI、ミキシングを学ぶ。	1・後	30	2	○			○			○

○		専攻実技 2	サウンドクリエイターとしての個性を徹底的に伸ばし、高いクオリティーで表現できる作品制作を目指す。そのためには学生各自が目指すサウンドの探求のみならず、幅広い知識、様々なスキルが求められる。本授業では講義とともに各自DAWで制作作業をするなかでそれらを身につけ、定期的な授業内発表により、締め切りに向けた自分なりの作業工程の組み立てを考えさせ、「人前で発表する」とはということかを体感する。	1 ・ 後	30	1				○	○				○
○		楽器レッスン 1	基礎的なピアノの演奏を学ぶ。正しいフォーム・メジャースケールを片手で弾くことができるよう学んでいく。3つ以上の和音を弾けることで楽曲制作の基礎能力を構築する。スケールごとに運指が異なる事を理解し、正しい運指で弾くことができるよう学ぶ。ポップスの譜面ではコードネーム表記の演奏が主体となっており、ピアノ譜面（音符の玉）が苦手な学生が多くみられるため、大譜表を見ながら右手と左手で弾けるよう学ぶ。	1 ・ 前	30	1				○	○				○
○		楽器レッスン 2	譜面を読みピアノを弾くことができるようになることを目的としている。簡単なバックギンや弾き語りで演奏できるようにする。ピアノを弾けるようになることによって読譜や音符リズム、コードの構成、ルートやベース音のことが理解できるようになり、各自の専攻の上達にもつなげる。ピアノを演奏するためには思うように指が動くことが必要となってくるので、左右の指の1本1本に自由度を得る事を必要である。	1 ・ 後	30	1				○	○				○
○		作詞・作曲 1	この授業は、オリジナル作品制作とリンクしている。音楽を作るにあたりデジタル的側面とアナログ的側面の両要素におけるアナログ領域を本授業では講義する。講師指導のもと、学生同士で班を作り、共同制作を行いながら、楽曲制作のコンセプトやメロディ・歌詞などのアナログ素材を授業内で作成する。また、楽曲を作り続けていくために必要な知識をTipsを体得することができる。	1 ・ 前	30	2	○				○				○
	○	マルチメジャー	自身が選択している専攻・コース以外に、学科の枠にとらわれず幅広く学ぶ授業です。	1 ・ 後	15	1	○				○				○





		○	キャリアプランニング4	就職活動と並行し実践的な授業を行う。企業情報や就職情報をプリントにて配布し説明会の有無やエントリー方法などを説明し指導を行う。社会人としての有り方など実社会で個々の学生が活躍出来る様にアドバイスをしてゆく。	2・後	30	2	○			○		○		
		○	スポーツ実習2	レクリエーションを兼ねた短期のスポーツ講座を、カレッジ全体で行います。	2・通	30	1				○	○		○	
○			ビジネストレーニング1	プログラミング教育の必修化を受けて、実務で通用するEXCEL活用法とマクロVBコーディングを通じて、今後の社会人にとって不可欠な論理的思考能力・問題解決能力を向上します。	2・前	30	2	○			○		○		
		○	ビジネストレーニング2	プログラミング教育の必修化を受けて、実務で通用するEXCEL活用法とマクロVBコーディングを通じて、今後の社会人にとって不可欠な論理的思考能力・問題解決能力を向上します	2・後	30	2	○			○		○		
		○	ボランティア2	社会貢献、地域貢献といった体験を通して、自身も社会に関わる喜びを得ていきます。	2・通	30	1				○		○	○	
○			音楽業界研究3	音楽にまつわる様々な業種を紹介する。その業種の成り立ちや過去、現在を紹介し魅力を説明する。同時に現代、次世代の音楽業界を考察する。	2・前	30	2	○			○				○
		○	音楽業界研究4	音楽にまつわる様々な業種を紹介する。その業種の成り立ちや過去、現在を紹介し魅力を説明する。同時に現代、次世代の音楽業界を考察する。	2・後	30	2	○			○				○
○			専攻実技3	1年次に身につけた、クオリティの高い楽曲をスピーディーに制作できるスキルをさらに磨き上げることを目的とする。各自が決めたテーマへの精度の高い実現力を身につけるとともに、より深い知識、技術力、柔軟な対応力を身につけることを目標とする。本授業では講義以外に各自DAWで制作し、定期的な授業内発表により、締切に向けた作業工程の組み立てを自主的に考え「世の中に向け発表する」とはどういうことを体感できる。	2・前	30	1				○	○			○

		○ 専攻実技 4	クオリティの高い楽曲をスピーディーに制作できるスキルをさらに磨き上げることを目的とする。各自が決めたテーマへの精度の高い実現力を身につけるとともに、より深い知識、技術力、柔軟な対応力を身につけることを目標とする。講義以外に各自 DAWで制作し、定期的な授業内発表により、締切に向けた作業工程の組み立てを自主的に考え「世の中に向け発表する」とはどういうことかを体感できる。	2・後	30	1				○	○				○
○		音楽基礎 3	学生が音楽を学ぶ際、また実務に携わる際に必須となる音楽理論を学ぶ。音楽の形態が多種多様化する現在においても楽譜での伝達は不変であり、楽器や作曲技術を習得する際に必要不可欠なものである。また実務上においてもスムーズな楽譜上での意思の疎通が正しく行われないと業務に支障をきたすことになる。楽譜を理解することは音楽を理解することと同義であり、また音楽家同士がコミュニケーションするための言語である。	2・前	60	4	○				○				○
		○ 音楽基礎 4	学生が音楽を学ぶ際、また実務に携わる際に必須となる音楽理論を学ぶ。音楽の形態が多種多様化する現在においても楽譜での伝達は不変であり、楽器や作曲技術を習得する際に必要不可欠なものである。また実務上においてもスムーズな楽譜上での意思の疎通が正しく行われないと業務に支障をきたすことになる。楽譜を理解することは音楽を理解することと同義であり、また音楽家同士がコミュニケーションするための言語である。	2・後	60	4	○				○				○
○		作品研究 3	音楽・美術・写真・デザインという幅広いアートについて学ぶことで、考察力・企画力・発言力に優れた社会人を育成します。	2・前	30	1				○	○				○
		○ 作品研究 4	音楽・美術・写真・デザインという幅広いアートについて学ぶことで、考察力・企画力・発言力に優れた社会人を育成します。	2・後	30	1				○	○				○
○		オリジナル作品制作 3	この授業は、「作詞・作曲」とリンクしている。音楽を作るにあたりデジタル的側面とアナログ的側面の要素におけるデジタル領域を本授業では講義、実習する。毎回、TIPとして、DTMの使用法の基礎から応用まで学び、その後、講師指導のもと、各個人、または学生同士で班を作っての共同制作を行いながら、オリジナル楽曲の制作を進める。	2・前	30	1				○	○				○







	○	マルチメ ジャー 2	自分が選択している専攻・コース以外に、学科の枠にとらわれず幅広く学ぶ授業です。	2 ・ 通	15	1	○			○		○		
	○	ライブス テージ鑑賞 2	ライブハウスやホール公演、修了公演や卒業ライブや学園祭ライブや学内外の様々なライブを鑑賞して、照明、P A、舞台、制作などのスタッフワークを学ぶ。	2 ・ 前	15	1	○					○	○	
	○	インターン シップ 2	本校提携・協力関係の企業で行われる企業研修です。また、内定した企業で行われる長期研修です。	2 ・ 後	##	14				○		○	○	
	○	キャリアゼ ミ 2	各専門分野をさらに深く学んでゆきます。将来、その専門分野におけるプロフェッショナルを育成する為に、通常授業より高度な知識やスキルを身につける為によりレベルの高い授業になります。	2 ・ 前	15	1	○				○		○	
合計					71 科目		2520単位時間 (116単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業時に必修科目1290時間(65単位)および選択科目420時間(21単位)以上取得し、合計1710時間(86単位)以上取得すること。	1 学年の学期区分	2 期
	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。